

# 令和2年度ネットリサーチ「ミュージアムパーク茨城県自然博物館での環境教育」に関するアンケート結果報告書

## ■結果のポイント

- 環境問題の展示で特に興味を感じるテーマについては、「地球温暖化、海面上昇、凍土融解」が59.4%で最も高く、次いで「大気汚染」が41.5%と続く。
- 自然博物館の利用を高めるために必要な取組については、「イベントの充実」が59.5%で最も高く、次いで「学習プログラムの充実」が49.0%と続く。

## ■調査結果の概要

### 1 環境問題の展示で特に興味を感じるテーマ

◇ 「地球温暖化、海面上昇、凍土融解」が59.4%で最も高く、次いで「大気汚染」が41.5%と続く。

まず初めに、以下の内容をお読みになってからお答えください。

自然博物館では、人間と自然環境との関係や本県の豊かな自然環境について展示を行うほか、学校等に対し学芸員を派遣して環境教育を行うなどの教育普及活動を行っています。

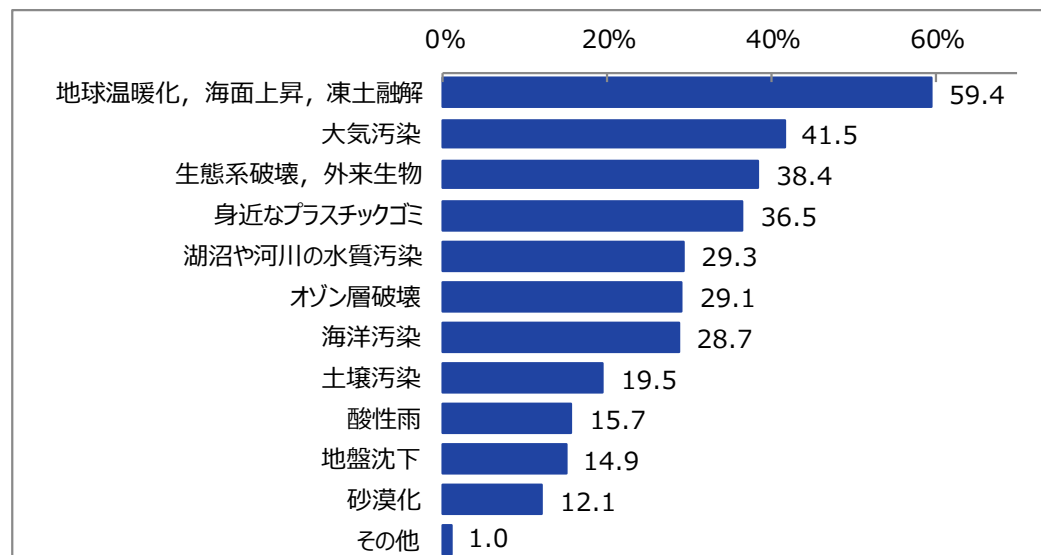
※ミュージアムパーク茨城県自然博物館について、詳細はこちらをご覧ください。 <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/index.html>

※環境教育とは、地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護・整備などについての理解を深めるために行われる教育・学習です。

Q1.自然博物館で行う環境問題の展示について、あなたが特に興味を感じるテーマは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
地球温暖化、海面上昇、凍土融解	59.4	594
大気汚染	41.5	415
生態系破壊、外来生物	38.4	384
身近なプラスチックゴミ	36.5	365
湖沼や河川の水質汚染	29.3	293
オゾン層破壊	29.1	291
海洋汚染	28.7	287
土壌汚染	19.5	195
酸性雨	15.7	157
地盤沈下	14.9	149
砂漠化	12.1	121
その他	1.0	10



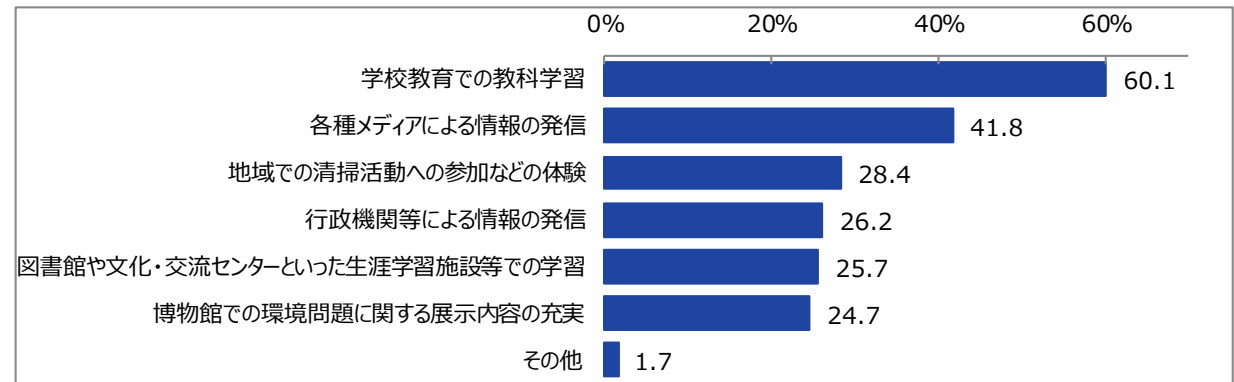
## 2 環境問題の啓発で効果的な方法

◇ 「学校教育での教科学習」が60.1%で最も高く、次いで「各種メディアによる情報の発信」が41.8%と続く。

Q2.自然博物館の教育普及活動を考えるうえで、環境問題の啓発にあたり、効果的な方法は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
学校教育での教科学習	60.1	601
各種メディアによる情報の発信	41.8	418
地域での清掃活動への参加などの体験	28.4	284
行政機関等による情報の発信	26.2	262
図書館や文化・交流センターといった生涯学習施設等での学習	25.7	257
博物館での環境問題に関する展示内容の充実	24.7	247
その他	1.7	17



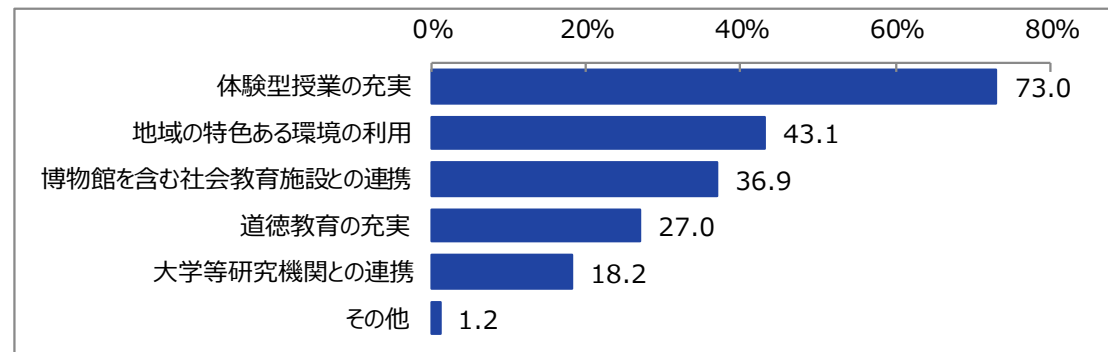
## 3 環境教育を進めるために必要な取組

◇ 「体験型授業の充実」が73.0%で最も高く、次いで「地域の特色ある環境の利用」が43.1%と続く。

Q3.自然博物館の教育普及活動を考えるうえで、学校教育での環境教育をより効果的に進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
体験型授業の充実	73.0	730
地域の特色ある環境の利用	43.1	431
博物館を含む社会教育施設との連携	36.9	369
道德教育の充実	27.0	270
大学等研究機関との連携	18.2	182
その他	1.2	12



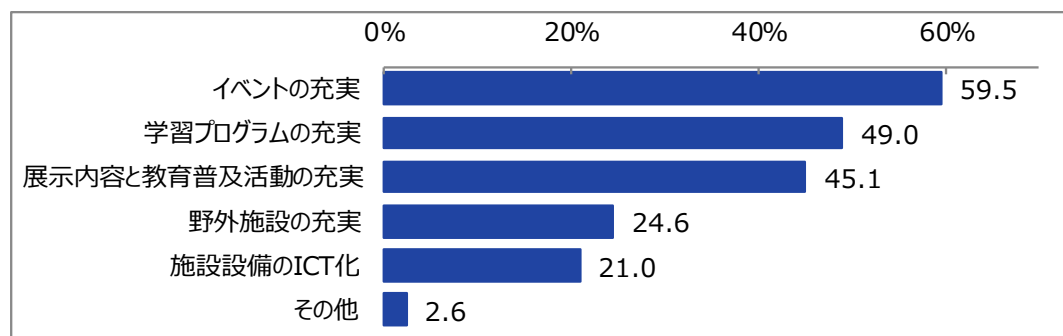
#### 4 自然博物館の利用を高めるために必要な取組

☆ 「イベントの充実」が59.5%で最も高く、次いで「学習プログラムの充実」が49.0%と続く。

Q4.自然博物館の利用を高めるために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
イベントの充実	59.5	595
学習プログラムの充実	49.0	490
展示内容と教育普及活動の充実	45.1	451
野外施設の充実	24.6	246
施設設備のICT化	21.0	210
その他	2.6	26



## ■調査の目的

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、人間と自然環境との関係や本県の豊かな自然環境について展示をしているほか、学校等に対し自然環境教育を含めた教育普及活動を行っている。今後、展示内容や教育普及活動の方法等を考えていくための参考とするために本調査を行う。

## ■実施概要

- ・実施期間 令和2年7月22日～29日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和2年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		205	160	96	348	191	1,000
性別	男性	106	80	51	178	99	514
	女性	99	80	45	170	92	486
年代別	18～29歳	33	27	17	65	33	175
	30歳代	34	28	17	62	32	173
	40歳代	46	37	21	81	42	227
	50歳代	45	33	19	69	38	204
	60歳代	47	35	22	71	46	221

県北：日立市，常陸太田市，高萩市，北茨城市，ひたちなか市，常陸大宮市，那珂市，那珂郡，久慈郡

県央：水戸市，笠間市，小美玉市，東茨城郡

鹿行：鹿嶋市，潮来市，神栖市，行方市，鉾田市

県南：土浦市，石岡市，龍ヶ崎市，取手市，牛久市，つくば市，守谷市，稲敷市，かすみがうら市，つくばみらい市，稲敷郡，北相馬郡

県西：古河市，結城市，下妻市，常総市，筑西市，坂東市，桜川市，結城郡，猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。